

第5回網走川ほか減災対策協議会
第3回オホーツク東部減災対策協議会
議事概要

日 時：令和元年7月4日（木）10：00～11：50

会 場：オホーツク合同庁舎 3階 議堂

出席者：網走市副市長、大空町長、美幌町長、津別町副町長、斜里町長、清里町副町長、小清水町長、オホーツク総合振興局長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第6普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長、網走警察署長、美幌警察署警備係長、斜里警察署警備係長、網走地区消防組合消防課長、美幌・津別広域事務組合消防長、斜里地区消防組合消防課長、網走開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯と取組方針等
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 令和元年度以降の取組内容
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール（案）

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

（網走市）

- ・観光客等に対する情報提供を目的として、道の駅とエコーセンターの屋外にWi-Fi環境を整備した。将来的には商店街、飲食街を含めた地域のWi-Fi環境を整備したい。
- ・避難所運営の標準マニュアルを作成し各施設へ配付した。避難所ごとに運営方法が異なる部分は、各避難施設でそれぞれ使いやすいよう手を加えてもらっている。
- ・今年度の大きい事業の一つになるが、平成31年2月に開局した地域FMを活用して、高齢者、要支援者、各地域リーダーである町内会長・民生委員の方を対象に、緊急告知防災ラジオの無償貸与を始める。現在準備を進めており12月には配布できるようにしたい。これにより自動的にラジオが起動して緊急情報を放送することができるため、高齢者等への情報伝達手段として有効なものと思われる。ただし地域FMのため、どうしても難聴地域が発生してしまうことから、万能なものではなく情報伝達手段の一つと認識している。こうした課題をひとつひとつ解決して、最終的には情報が行き渡るような環境整備を進めたい。

（大空町）

- ・今年度はダンボールベッド等備蓄用品の整備を進めていきたい。
- ・例年行っている9月1日の防災訓練について、今年度は地震対策を想定した防災訓練を東藻琴地区で行う予定。
- ・役場庁舎や東藻琴総合支所において、非常電源の確保を進めていきたい。（役場庁舎について）従来は照明用のためであったが、平成30年度の停電時の教訓を生かし、情報伝達に必要な機器等のための非常用電源確保を進めていきたい。
- ・地域防災マスターの認定研修会を大空町で10月又は11月に開催し、地域内におけ

る防災リーダーを育成したい。

- ・網走地方気象台の協力により、職員の初動マニュアル作成のための研修会を実施する。
- ・網走市の地域FMの電波を大空町でも受信できることから、今後これを活用した情報伝達手段を検討していきたい。
- ・平成27年10月に女満別川とサラカオーマキキン川で堤防決壊が発生した。その事象を踏まえてから、網走川本川以外の中小河川について監視システムの設置、除草、樹木伐開、河道掘削を進めていただいているが、サラカオーマキキン川の河道掘削では全体の30%進捗である。当初の5ヶ年計画でいくとまだ進捗率が上がっていない状況であり、洪水に対するハード・ソフト対策が十分ではないため、整備を進めていただきたい。
- ・本日の会議は水防が議題だが、地域としては洪水対策と併せて土砂対策も考慮して対応をお願いしたい。北海道からは土砂災害の危険箇所について、地形上の問題提起はされているが、まだ調査中であることから住民に周知をしきれていない。そのため、関係機関に洪水対策と土砂対策の両面から協力をお願いしたい。

(美幌町)

- ・美幌町では水防用として非常用発電設備を購入していたが、平成30年のブラックアウトの時に、その設備を病院や公共施設等で活用できたことで、準備が大切なことを実感した。
- ・今年度は、町主催の総合防災訓練を構想している。今までは自治会が中心になっていたが、町が主体となり地域と関わっていこうという思いで訓練内容の検討を進めている。
- ・防災無線の更新について、アナログ系からデジタル系に換えることを検討している。

(津別町)

- ・ハザードマップは、平成31年3月に全戸配布を完了した。
- ・情報伝達手段として広報車を活用している。その他にメール配信も行っているが、使用頻度や登録者数に伸び悩んでいるので、今年度は登録者数を伸ばし、情報伝達の取組みを進めていきたい。
- ・防災管理体制の強化のため、危機管理型水位計や監視カメラの設置について、北海道管理の河川にも整備を進めていただきたい。
- ・災害時に使用する排水ポンプや電源設備について、網走川流域の各自治体と連携できる体制がとれるよう情報共有していきたい。

(斜里町)

- ・平成28年の出水時に避難勧告・避難指示を発表したが、水位計がなかったため、職員が危険を冒して現地で測定していたことから、水位計を設置していただき感謝している。
- ・防災において、行政で出来ることはしなければならないが、住民一人一人の心構えや備えも必要であると考え。他の地域で起こった災害が自分の身に起きたらどうなるかを考えてもらうことが難しい。そのため、住民に意識付けするための伝達方法を工夫していくことが大切ではないかと考える。
- ・土砂災害警戒区域にある地区で、住民が自主的にワークショップを開いて、避難計画を立て、実際に避難訓練を行ったところ、思うようにいかないこともあった。そのような事例を再度整理して、ハザードマップに反映させた上で改めて配布することを目標

としている。

- ・観光客に対する災害情報の伝達や避難誘導をどのようにするかが課題である。

(清里町)

- ・今年度の町の取組として、役場関係課所や社会福祉施設等への防災 Wi-Fi を配置していきたい。
- ・各公共施設の電源確保として、発電機を順次導入予定。
- ・役場の非常用電源については、災害対策本部を円滑に運営できるような大型の発電機を導入予定。
- ・昨年度、防災マニュアルを配布した。これを有効活用するため、地域で行う出前講座を繰り返すことにより、住民の意識向上につなげたい。

(小清水町)

- ・役場庁舎の建て替えを予定しているため、避難所の抜本的な見直しに迫られている。
- ・ハザードマップは、今年度発注し、年度内に配布する予定。
- ・情報伝達に課題があり、広報車で巡回しても聞こえないといった苦情がある。情報を配信するメールの利用者を増やすことも中心に進めていきたい。また、網走市の地域 FM が町内全域で受信できるので、それを利用したい。ただ、町内を走行中の車内では聞くことができるが、室内に入ると受信できない地域もある。今年度、電波調査を行い、地域 FM の電波を室内で受信できるような仕組みづくりを行い、災害情報の配信を色々な手段で伝えられるよう検討したい。
- ・行政だけでは対応できないため、各自治会で自主防災組織を立ち上げてもらえるようフォローアップしていきたい。

(網走地方気象台)

- ・一日防災学校や各種訓練等、企画段階から参加し、協力したい。
- ・警戒レベルが導入されたがまだ一般の方に浸透されていない。各自治体の職員マニュアル作成の際や職員研修時に出向いて協力することに力を入れたい。
- ・網走地方気象台ができて今年で 130 周年になることから、これを契機に何かできないかということで防災落語の取組を行っている。
防災について住民に興味を持ってもらうために面白い方法はないかと考え、取り組んでいるものである。今年度限定で行ってきたい。

(陸上自衛隊第 6 普通科連隊)

- ・災害時における活動としては、各自治体の災害対策本部に隊員を派遣し、情報収集を行い、その情報に基づき救助、救難活動を行うこととなる。その際には地図が大きな要素となる。各機関がそれぞれ違う地図を使うと情報の伝達や共有が迅速にいかないことがある。
- ・自衛隊では国土地理院がインターネットで公表している UTM 座標を表記した地図に基づき、救助活動を行っている。各自治体の災害対策本部においては、この国土地理院の地図に基づいて関係機関と情報共有できれば迅速な対応ができるものとする。
- ・現地では情報が錯綜することもあるので、情報をどう処理するかというのが大きなポイントとなる。自衛隊で行っている訓練ではどのような情報によりどのような作戦を立てているのか、参考にしてもらえるよう研修等も受け入れているので、活用していただきたい。

(斜里地区消防組合)

- ・自治体等の関係機関と連携していきながら、消防団の教育を充実し発展させていきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・救難、救助が必要となる前に、住民の方に迅速に避難してもらえよう取組をしていきたい。
- ・昨年同様、気象台の方を講師に招き、警察職員に対する教育の場を設けたい。また、今年度は自治体職員の方にも参加していただきたいと思っており、顔の見える関係を築きたい。

(斜里警察署)

- ・住民に対しては広報誌により災害への備えに関する啓発を行っている。
- ・職員に対する取組としては危険箇所の把握や訓練を行っている。今後も関係機関との連携により情報共有しながら、災害対応に万全を期したい。

(網走地区消防組合)

- ・今後も関係機関との連携を図り、情報共有を行っていきたい。
- ・各機関の実施する訓練への参加、資機材の点検や整備、各河川の巡視活動等を実施していきたい。

(美幌・津別広域事務組合)

- ・災害を想定し、災害活動用の資機材整備や団員の装備品整備を進め、消防力の充実・強化に努めたい。
- ・町や自治会連合会等が実施する大規模な防災訓練へ参加し、関係機関との連携を図りたい。また、自治会単位の自主防災訓練にも積極的に参加し、地域特性による災害事例の啓発や、これをもとにした避難訓練等を行っていきたい。

(網走警察署)

- ・災害に関する情報発信、各町内会や各学校、関係機関に出向く機会を通じて、住民の防災意識を高められるよう活動していきたい。
- ・洪水だけではなく、災害全般に関わる危険箇所について把握していきたい。
- ・災害発生時に関係機関と連携が図れるよう、日頃より情報共有を行っていきたい。

(美幌警察署)

- ・平成27年、28年に美幌・津別地区で浸水被害が発生したことを踏まえ、「防災の日」に合わせて、当時の洪水被害の写真パネル展示を警察署内で実施している。
- ・住民に対する防災講話や災害時対応訓練を実施している。
- ・毎年、小学生が社会見学で警察署に来る機会があり、過去の被災状況写真を見てもらったり、避難所の場所を探す簡単な図上訓練を実施している。
- ・迅速な情報収集を実施するため、平素から地元自治体と顔の見える関係を築けるように活動し、各防災訓練に積極的に参加している。
- ・警察署職員に対しても災害の注意喚起を行い、台風や大雨時にはささいな情報でも報告することで、防災意識の向上を図っている。

(北海道オホーツク総合振興局)

- ・平成30年度に、危機管理型水位計を網走川ほかの地域に3基、オホーツク東部地域に4基設置し、水位情報の提供を開始している。引き続き、水害危険性の高い場所へ危機管理型水位計の設置を行っていく。
- ・北海道管理の河川、道路についての各情報を自治体首長へ直接連絡するホットラインにより、各自治体が避難勧告等の発令を判断するための情報提供を行っていきたい。
- ・道庁では、各自治体の実施する防災訓練の企画・立案について支援している。今年度も管内では紋別市、美幌町、小清水町、滝上町で、この支援制度を活用した訓練を予定している。訓練にお悩みの際は気軽にご相談いただきたい。
- ・災害時に被害を最小限に防止又は軽減していくために、地域住民の防災活動が自主的かつ組織的に行われることが重要であることから、北海道では、地域での防災活動のリーダーとなる北海道地域防災マスターの育成に取り組んでいる。オホーツク管内では、本年度、秋以降に認定講習会の開催を予定している。住民の方の積極的な参加に向けてご配慮をお願いしたい。
- ・今年度、水害の危険性が高い箇所には簡易型河川監視カメラの設置を予定している。設置箇所については、今後関係機関の自治体と協議を行う予定である。

以上